

“どこまでできるかやらせる勇気”

園長 高杉 洋史



今年のカラスノエンドウはアブラムシもつかず豊作でした。摘むことを純粹に楽しんでいる姿を見ると私たちの仕事の大切さを感じます。



今年度、吉塚ゆりの樹幼稚園から溝口先生と清田先生が来てくれました。新鮮な目で玄海ゆりの樹幼稚園の子どもたちの姿をみてくれています。教諭同士の話題で興味深いテーマはブランコとか滑り台の遊び方です。ビュンビュン立ちこぎをしている子どもたちを見て、たくましいなあという感想が出てきました。その反面ぶつかったら大変なことになるなということが頭をよぎります。特に一学期はひやひやした毎日が続きます。安全に遊ぶ方法は話しているのですが、「廊下は歩こうね（走ってぶつかったら危ないんだからという意味）」という言葉かけも、遊び始めた子どもたちには響きません。五味太郎さんの作品に「いったでしよ」という絵本がありますが、「親や教諭の気持ちにじみ出ています。そしてこの絵本は母親の気持ち以上の子どもの成長でしめくられています。大人の見守りには勇気がいられますね。さて園長の心ですが、安全と子どもの成長のどちらをとるか行ったり来たりしています。保護者の皆様の心もきつと同じでしょう。幼稚園教育要領ではそのところを「環境を通じた教育をする」ように表現しています。そして幼稚園の先生たちから、ああしようとかこうしようという提案が出てきています。なかなかいい線いつている提案で、うれしい毎日です。子どもたちもたくましく育っています。ムカデやハチが現れても先生にすぐに教えて

くれて触ったりしません。毎日の経験が自らの安全を守っています。蛇が怖い園長はせつせと草刈りをしています。草刈りも刈りすぎるとバッタが逃げるのでプロの方からすると中途半端な草刈りですが、幼稚園仕様と大目に見てください。子どもたちの成長の芽を摘まないよう教育環境は整え勇気を持って見守れる幼稚園を目指しています。



タマネギは育つ途中の段階では葉っぱも食べる事ができます。ちいさくても喜んでくれて良かった。

